



小中一貫校 南アルプス市立白根巨摩中学校

# 伝統からの創造

～思いやりの心と主体性・創造性を備えた巨摩中生の育成～

1月号

令和7年1月31日(金)

## 明けましておめでとうございます

新年にあたり、職員一同気持ちを新たに、生徒の健康・安全を最優先しつつ、すべての生徒が自分の良さを発揮し、より成長できるよう教育活動に取り組んで参ります。本年も本校教育活動にご支援・ご協力頂きますよう、お願いいたします。

2025年は巳年。巳が意味するへびは、古来、豊作や幸運の象徴として大切にされてきました。また、脱皮を繰り返しながら成長するさまから、「再生」や「永遠」をイメージせる縁起の良い生き物だともいわれ、「新たなことが始まる年」とされています。また、2025年の主なスケジュールを見ると、日本では万博や世界陸上、デフリンピックなど大規模な国際イベントがいくつも予定されています。さらには戦後80年、阪神大震災や地下鉄サリン事件から30年など、社会を揺るがした事件や事故、災害からの節目でもあります。

みなさまにとりまして一日一日が充実し、活力と希望に満ちた年になりますように…。

## 3学期始業式

10日(金)、県内で猛威を振るっているインフルエンザや今季最強寒波への対策のため、オンラインにより各教室に配信する形で始業式を行いました。校長先生は、「新年を迎え、大きな節目となるこの時期は目標がたてやすい。目標をたてるにあたり2つの視点に留意したかどうか。1点目は、大きな目標をたてること。2点目は大きな目標を叶えるための日常の小さな目標をたてること。その小さな目標をこつこつ取り組むことが難しい。昔の人はことわざでその大切さを示した。継続は…、ローマは…、雨垂れ…、千里の…と、大事なことわざが沢山ある。ぜひ、これらのことわざを胸に持ちながら、白根巨摩中生としてあと3ヶ月、がんばりましょう。」と話されました。

各学年代表と生徒会代表が、学期の抱負や決意を発表。4名とも落ち着いて自分の言葉でしっかりと意見を表明することができ、とても立派でした。新たな年にふさわしい良いスタートをきることができました。



## 3年生保育実習

15日(水)、17日(金)に家庭科の授業の一環として、市立巨摩保育所を訪問しました。幼児についての理解を深めるといふねらいのもと、幼児と触れあったり、一緒に遊んだりしました。「疲れたけど楽しかった」「保育園の先生方の苦勞がわかった」等の感想が寄せられました。男女を問わず積極的に育児に取り組める社会を実現していく担い手になってくれることと思います。





## 第18回校内ミニ駅伝

15日(水)放課後、男子は12チーム、女子は11チームが参加し、約1kmの校内周回コースにおいて、冬季トレーニングの成果を競い合いました。優勝は今年度も、男女とも「陸上部」でした。受験勉強中の3年生がオープン参加したことで大きな盛り上がりを見せました。1・2年生は各自の競技力向上につながる走りを見せてくれました。3年生はこの粘り強さと力強い走りは、きっと受験につながってくるはずです。さあここからは各自の目標にむかって勝負です。



## 第2回学校関係者評価委員会

2学期に生徒や保護者、教職員に実施した「学校評価」を基に、より良い学校運営にむけての意見をいただきました。1学期も同様の会議を開き、2学期からの教育活動に反映させてきました。委員の皆様からは「2学期は学園祭や合唱発表会があり、演劇も合唱も素晴らしかった。生徒と先生方が一体となって取り組んでいる様子が伝わってきた。」「巨摩中生はよくあいさつをしてくれる。学校が楽しそうな雰囲気を感じる。」「何事もよくがんばっている。先生方もがんばっている。今後、地域でもあいさつや声掛けを積極的に行ったり、地域の一人としてできることをやっていく。先生方の働き方改革につながれば、と思う。」等の意見が出ました。後日、HPに掲載いたします。

## 新入生保護者説明会

28日(火)、今春入学予定の小学校6年生と保護者が来校。はじめに生徒会役員が学校紹介を行い、続いて学習面、生活面などの説明を行いました。その後、児童は授業を見るため校舎へ。参観を終え、感想を聞いてみると、「中学校ではとても楽しそうに勉強しているいな、と思った」と教えてくれました。

なお、会場は1年生が設営してくれました。先輩としての初仕事でした。自分たちがしてもらったことをきちんと返していこうとする姿勢が至るところで見受けられ、頼もしさを感じました。椅子の片づけは6年生が気持ちよく手伝ってくれました。気づき、考え、行動することができる素晴らしい児童たちで、4月からの生活がとても楽しみになりました。  
( 文責:教頭 )